

桐工芸

歴史

金沢の桐工芸の起源は、室町時代からとも、江戸時代からとも言われている。明治20年代に、加賀蒔絵の巨匠大垣昌訓[おおがきしょうくん]が、桐火鉢に蒔絵加飾の技法を創案した。無地無色で豪快な桐の肌に、華麗な伝統蒔絵を施した火鉢は、部屋を華やかに演出するものとして喜ばれた。

挽き物形成で美しい特色を持つ金沢桐火鉢は、明治31、32年(1898、1899)ごろから中川與三郎によって生産、販売され、桐工芸の名が徐々に広まり、県内はもちろん、関東、関西から北海道、樺太まで出荷された。火鉢とともに仕上げた小型の煙草盆などの商品も増え、大正14年(1925)には金沢桐火鉢組合が結成され、大正末期から昭和初期にかけて、業界は販路を拡大していった。

特色

桐の木質は草に似た組織を持ち、気孔が多く軽くて割れにくいのが特徴です。耐湿、耐火性に優れ、物の保存に向いているため、箆筒[たんす]などの材料として最適である。

桐工芸品はこの特質を生かして、木肌の軟らかさと、温かみのある感触が、独特の風合いを醸し出している。桐火鉢は他県でも生産したことがあるが、材料の不足などもあり、現在では金沢が全国屈指の特産地となっている。

桐は早く生長し、県内全域で生育するが、白山麓、特に石川郡鶴来方面(現・白山市)の桐材がよく使用されている。



桐木工芸

历史和特色

明治20年代、加賀泥金画の巨匠大垣昌訓首创了在桐木火鉢上施以泥金画的加飾技法。

金沢桐木火鉢是用旋床技术加工而成，具有纹路精美的特色。大约在明治31、32年(1898、1899)的时候，由名匠中川与三郎制作销售，其后桐木工艺的名声渐为传播，不仅是在石川县内，还销往关东，关西以及北海道，桦太地区。与火鉢配套制成的小型烟具盘等商品也有增加。在大正14年(1925)，结成了金泽桐火鉢组合，从大正末期到昭和初期，不断扩大本行业的销路。

桐木的木质组织与草相类似，具有气孔多、材料轻而且不易碎裂的特征。因其耐湿，耐火性很好，适合物品的保存，是制作衣柜的最佳材料。

桐木工艺品正是利用了这个特质，木材本身具有的柔韧度和木材的温暖感触，散发出一种独特的风格。金泽成为全国屈指可数的特产地。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	花器、銘々皿、小箆筒、小物(插花用器皿、小碟、小柜、小物品)
主な生産者(主要生产者)	金沢桐工芸振興会(金泽桐工艺振兴会) 〒920-0932 金沢市小將町5-10(金泽市小將町5-10) TEL (076)231-2475